

大河内地区まちづくり協議会 大河内地区防災計画 ～地区の助け合いルール作り～

平成31年1月
矢津地区

矢津地区の概要

人口	世帯数	65歳以上の割合
302人	123世帯	38.4%

(平成31年1月現在)

矢津地区の特徴

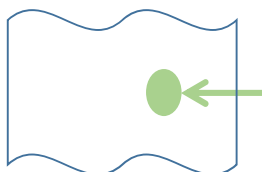
- 高齢者の家庭や一人暮らしの家庭が多い
- 手入れのされていない山林が多い
- 耕作放棄地も多くなりシカ・イノシシ・サルが出没している
- 地区内での交流が少なくなっている
- メイン道路が一本しかなく通勤通学時の事故が心配
- 傾斜地のため家屋や田畑に石積みが多い

過去の災害経験

- 昭和57年台風10号により矢津川が氾濫し中矢津の寺7の庫裡が全壊した

矢津地区の被害想定

- 南海トラフ地震時にはどのような状況になると思われるか？(別紙①に記入)



矢津地区



別紙①

南海トラフ地震による被害想定

- 古い家の倒壊
- 石垣の崩壊・山崩れの多発
- 土砂崩れによる道路の寸断
- 高速道路の橋梁の倒壊

矢津地区避難計画

矢津地区の目標

「迅速・適切な支持と行動」

矢津地区の緊急避難場所

大河内小学校
矢津公会堂

避難行動時の基本ルール

- 火元の確認
- 近隣への声かけ
- 指導者の指示に従う

避難所運営時の基本ルール

- 通路・トイレの確保
- 平等な扱いと弱者優先
- 指導者の指示を守る

矢津地区における避難所等の位置



矢津地区の避難先と避難時のルール（風水害）

①台風接近前の避難

- 持出物の用意
- 一人暮らしの老人等に声をかけ早めの避難

②台風接近直前の避難

- 自力での移動が困難な高齢者を送る
- 自宅の方が安全な時は外に出ない
- 川（矢津川等）には近づかない

③避難勧告等発令時

- 独居老人に声をかける
- 自宅が安全と考えた時は外に出ない

④矢津川増水時

- 絶対に近づかない

避難時の 留意点

- 自分の居場所を家族や隣人に知らせる
- 独居老人の安否を確認する

矢津地区の避難先と避難時のルール（地震）

①平時の確認事項

- 危険箇所の確認
- 避難ルートの確認
- 要支援者と救助者の確認

②地震発生直後の行動

- 倒壊家屋や道路の寸断などの状況を把握する
- 周囲の安全確保

③避難行動時

- 助け合いの精神で行動
- 安全確認

④避難所到着後

- ルールを守る
- リーダーの指示に従う

避難時の
留意点

大河内地区防災計画のPDCAサイクル

作成目的 大規模災害発生後72時間（3日）までの地区の助け合い計画

活用組織 自治会、自主防、福社会、消防分団、学校区等を活用

活用費用 市からの補助・助成を確保し、これを活用しながら進めていく

